

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

中国北朝造像記の再検討

2. 主宰責任者氏名

佐藤 智水(龍谷大学文学部・客員教授)

3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

①日時:2018年12月11日 14:00~17:00

場所:京都大学人文科学研究所 北白川分館 考古藝術共同研究室

演題等:中国北朝造像記の再検討

講演者または報告者:焦建輝(龍門石窟研究院・副研究館員)

②日時:2019年1月8日 14:00~17:00

場所:京都大学人文科学研究所 北白川分館 考古藝術共同研究室

演題等:中国北朝造像記の再検討

講演者または報告者:焦建輝(龍門石窟研究院・副研究館員)

③日時:2019年2月12日 14:00~17:00

場所:京都大学人文科学研究所 北白川分館 考古藝術共同研究室

演題等:中国北朝造像記の再検討

講演者または報告者:焦建輝(龍門石窟研究院・副研究館員)

4. 概要(400字程度)

本国際研究ミーティングは、中国・龍門石窟研究院の焦建輝氏が、人文研の招へい研究員(客員准教授)として2018年11月~2019年2月の三ヶ月間滞在された機会を利用して、三度にわたり開催された。

人文研では所蔵拓本を活用して中国洛陽・龍門石窟の造像と造像記について考察を加える共同研究班「龍門北朝窟の造像と造像記」が運営されており、造像記の翻刻・解釈については仏教史学研究の立場から、非常勤講師として佐藤が助言を行っている。

本ミーティングでは各回とも、龍門北朝窟を代表する古陽洞の造像記と対応する造像について、同班の班員が作成した資料をもとに、現地の状況に精通した焦氏の教示を受けつつ合同で検討を加えた。第1回は唐代の作例、第2・3回は北壁上部の作例を、それぞれ対象とした。当日は留学生を含む班員、及び滞在中の外国人研究者をまじえた参加者との間で幅広い討論が交わされ、濃密な研究交流が行われた。この結果、同班が進めている造像記読解の信頼度を向上させる、貴重な知見を共有することができた。

5. 参加者(別紙「参加状況」も記載してください。)

①学外

佐藤智水(龍谷大学・客員教授)、焦建輝(龍門石窟研究院・副研究館員)、Yi Lidu(フロリダ州立大学・教授)、Dorothy Wong(ヴァージニア大学・教授)、山名伸生(京都精華大学)、外山潔(泉屋博古館)、大西磨希子(仏教大学)、北村一仁(龍谷大学)、上枝いづみ(龍谷大学)、黄盼(京都府立大学)

学内

折山桂子(文学研究科)

所内

岡村秀典、安岡孝一、稲本泰生、向井佑介、檜山智美

②学外

佐藤智水(龍谷大学・客員教授)、焦建輝(龍門石窟研究院・副研究館員)、山名伸生(京都精華大学)、大西磨希子(仏教大学)、北村一仁(龍谷大学)、上枝いづみ(龍谷大学)、黄盼(京都府立大学)

学内

折山桂子(文学研究科)、カルロッタ・アヴァンツィ(文学研究科)

所内

岡村秀典、安岡孝一、稲本泰生、向井佑介、檜山智美

③学外

佐藤智水(龍谷大学・客員教授)、焦建輝(龍門石窟研究院・副研究館員)、山名伸生(京都精華大学)、外山潔(泉屋博古館)、大西磨希子(仏教大学)、北村一仁(龍谷大学)、高橋早紀子(愛知学院大学)、黄盼(京都府立大学)

学内

折山桂子(文学研究科)、カルロッタ・アヴァンツィ(文学研究科)

所内

岡村秀典、安岡孝一、稲本泰生、向井佑介、檜山智美

6.助成金の使途等

佐藤智水(龍谷大学名誉教授)の参加旅費、岡山⇄京都往復×3回

7.その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

第1回は龍門古陽洞所在の、唐代に追加された造像及び造像記について、既存の北朝造像及び北朝造像記との関係性という観点を重視した検討が行われた。第2・3回は龍門古陽洞の北魏開窟当初に制作された北壁上層部をブロック単位に区分し、造像および造像記に網羅的な検討が加えられた。

各回とも、焦氏からは造像記の文字の判読や、対応する造像の制作過程について、龍門の現地で保存と研究を行う考古学者ならではの見解を示していただいた。既刊書及び当方の調査資料にない写真の提示や、窟内の高所に位置するため状況がわからない事例の細部情報の提供は特に有益であった。

参加者の多くは東アジアの仏教美術・考古学・宗教史などを専攻する研究者であり、中国で最も重要な仏教遺跡の一つである龍門石窟の現地状況を熟知する焦氏との意見交換は、各人の研究に好影響を及ぼす貴重な機会となった。また人文研と龍門研究院の組織間における友好関係を強化し、人文研を国際的な龍門研究の拠点として活用する上でも、効果的なミーティングとなった。

人文研では龍門石窟研究班で造像記の検討が継続的に行われており、今後は所蔵拓本を採録した資料集の刊行が計画されている。本ミーティングの成果は、そこに掲載される釈文などの情報の充実と精度の向上にも、貢献を果たすであろう。

なお第一回には米国から来日中の Yi Lidu 氏および Dorothy Wong 氏の参加を得た。両名は欧米を代表する中国仏教造像の研究者である。特に Wang 氏からは、米国の美術館に収蔵される龍門石窟の古写真に関する情報を得た。将来在米資料を取り込んだ龍門研究を展開していく上でも、本ミーティングはその端緒を開く意義深い場であったといえる。